

スカイマークの上期決算概観

この度公表されたスカイマークの2014年度上期決算を概観した。

1. 収支状況（損益計算書）

- ① 増便と大型化（A330 導入）で供給席数を+11%増やし、旅客数も+9%増えたが、収入単価の大幅低下で前年より減収となった。
他方席数増に加えて座席コストも上昇したため、営業費用は大幅に増加した。
これには円安や A330 導入費用などの影響もある。
これにより急激に収支は悪化し、赤字に転落した。

営業収益（前年）	455 億円	⇒	（当期）	452 億円	（差）	▲3 億円
営業費用（前年）	435 億円	⇒	（当期）	496 億円	（差）	+61 億円
営業利益（前年）	20 億円	⇒	（当期）	▲44 億円	（差）	▲64 億円
当期純利益（前年）	17 億円	⇒	（当期）	▲57 億円	（差）	▲79 億円※

※当期純損失の増加には、税の繰延効果が失われたことも絡んでいる。

なお、第2四半期に限れば11億円の営業利益を計上しているが、これも前年に比べれば▲34億円悪化している。
また A380 違約金に関しては、交渉中のため決算には反映されていない。
（前払金 255 億円は支払済み。）

- ② **通期見通し**； 下期は上期に比べて収入減、費用増となり、▲80億円の営業損失となる。
この結果通期の営業損失は▲124億円となり、純損失は▲137億円と見込んでいる。
A380について交渉がまとまれば、更に違約金の分が損失に加わる。

《図表1》損益計算書

				(H25)			(H26)			H26下予	H26通予
	H22上	H23上	H24上	4-6月	7-9月	H25上	4-6月	7-9月	H26上		
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円		
営業収益	26,644	39,746	46,281	18,478	27,027	45,505	18,194	26,978	45,172	43,123	88,295
営業費用	20,750	30,624	39,605	20,955	22,517	43,472	23,720	25,839	49,559	51,164	100,723
営業利益	5,894	9,122	6,676	-2,477	4,510	2,033	-5,526	1,139	-4,387	-8,041	-12,428
(利益率;%)	22	23	14	-13	17	4	-30	4	-10	-19	-14
営業外収支	-396	-1,150	-1,204	1,274	54	1,328	78	326	404	442	846
経常利益	5,498	7,972	5,472	-1,203	4,564	3,361	-5,448	1,465	-3,983	-7,599	-11,582
当期純利益	2,751	4,465	2,960	-1,241	2,943	1,702	-5,795	51	-5,744	-7,932	-13,676
											(A380減損を含まず)

2. 財務状況（貸借対照表）

- ① 資金の状況と見通し； 上期末の手元資金は、期首より減少して45億円となった。今後、予備エンジンやシミュレーター等のセール&リースバックによって手元資金増を図り、還付税金が入ったとしても、下期は▲80億円の損失が予想され、前受旅客収入金も時期的に減少すると思われ、資金的に非常に厳しくなる可能性もあろう。またA380違約金が、前払金を超えて必要となった場合は、その分更に苦しくなる。
- ② 純資産の見通し； 現在389億円あるが、下期の損失（▲80億円）にA380の違約金分が加わるため、純資産は大幅に減少する。仮にそれが前払金分だけに留まったとしても、期末には純資産は50億円程度まで減少する勘定になる。

《図表2》貸借対照表

	期首	上期末	(主な内容)		期首	上期末
	百万円	百万円			百万円	百万円
現預金	7,065	4,549		未払金・未払費用	4,380	4,753
未収入金	6,811	5,083		前受旅客収入金	7,373	7,701
未収還付税金	2,371	1,220		整備引当金	18,757	21,478
預け金	1,973	3,337		リース債務	2,531	2,299
前払費用・前渡金	2,868	4,101		繰延精勤負債	69	1,418
その他	568	537		その他負債	972	897
流動資産	21,656	18,827		負債合計	34,082	38,546
航空機	3,110	3,017	予備エンジン等	資本金・資本剰余金	27,495	27,505
機械&装置	1,584	2,891	シミュレーター等	利益剰余金	16,827	11,083
建物	1,646	1,574		その他	367	361
車両・工具器具	2,027	1,872		純資産合計	44,689	38,949
リース資産	2,361	1,921				
建設仮勘定	26,440	25,521	A380契約金等			
敷金保証金預け金	6,184	6,489	リース保証金等			
長期預け金	13,572	15,191				
他の固定資産	190	193				
固定資産	57,114	58,669				
資産合計	78,771	77,496				

3. 益性指標（JAMR 試算）

便数増＋大型化による座席増（＋11％）に、旅客増（＋9％）がともなわずに、搭乗率は低下した。

また、旅客収入単価の大幅下落（▲9％）と、座席コストの上昇（＋3％）によって、B/Eは大幅に悪化した。

これらを、収益性の高かったH22上期と比べると、著しく悪化していることがわかる。

搭乗率	(H22上)	82.4%	(前年)	69.8%⇒(当期)	68.5%
旅客収入単価	(H22上)	13,378円	(前年)	13,111円⇒(当期)	11,994円
座席コスト	(H22上)	8,583円	(前年)	8,745円⇒(当期)	9,016円
B/E	(H22上)	64.2%	(前年)	66.7%⇒(当期)	75.2%
便当り収入	(H22上)	195万円	(前年)	162万円⇒(当期)	149万円

なお、大型化の進んだ9月の搭乗率が前年より低下していること、

特にA330主力路線である羽田＝福岡線で席数増に旅客増が伴わず88%⇒74%と低下幅が大きいことが気になる。

《図表3》収益性指標（JAMR 試算）

		H22上	H23上	H24上	4-6月	7-9月	H25上	H26	7-9月	H26上	前期差	(率)
便数	便	13,665	21,622	28,650	13,564	14,522	28,086	14,849	15,449	30,298	2,212	108
1日の便数	便	75	119	158	149	158	153	163	168	166	12	
座席数	千席	2,418	3,827	5,071	2,401	2,570	4,971	2,643	2,854	5,497	525	111
旅客数	千人	1,992	2,968	3,422	1,535	1,935	3,471	1,643	2,123	3,766	295	109
搭乗率	%	82.4	77.5	67.5	63.9	75.3	69.8	62.2	74.4	68.5	-1.3	
旅客当り収入	円	13,378	13,392	13,524	12,036	13,965	13,111	11,071	12,709	11,994	-1,117	91
座席当りコスト	円	8,583	8,002	7,810	8,728	8,760	8,745	8,975	9,054	9,016	272	103
B/E	%	64.2	59.8	57.8	72.5	62.7	66.7	81.1	71.2	75.2	8.5	
1便当り収入	千円	1,950	1,838	1,615	1,362	1,861	1,620	1,225	1,746	1,491	-129	92
1便当り費用	千円	1,518	1,416	1,382	1,545	1,551	1,548	1,597	1,673	1,636	88	106
便当り営業利益	千円	431	422	233	-183	311	72	-372	74	-145	-217	
平均座席数	席	177	177	177	177	177	177	178	185	181	4	102
平均旅客数	人	146	137	119	113	133	124	111	137	124	1	101
B/E旅客数	人	114	106	102	128	111	118	144	132	136	18	
利益旅客数	人	32	32	17	-15	22	6	-34	6	-12	-18	

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてを閲覧者ご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

当資料は、この資料の作者が信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、当研究所としての見解ではなく、また当研究所はその正当性を保証するものではありません。内容は予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。また、当資料は著作物であり、著作権が保護されます。全文もしくは一部を転載される場合には出所を明記されるようお願いいたします。